

[様式例 2]

個別の指導計画（1学期）

○通級による指導届出日：令和 年 月 日 ○個別の指導計画作成日：令和 年 月 日

児童生徒名	※新しい場面や初めての人に対する緊張や不安が強い児童	主たる障がい	自閉症
学校名 年組	〇〇市立〇〇小学校 2年〇組	通級の形態	自校通級・他校通級・巡回指導
作成者 (通級担当者)		学級担任	
指導時数	○週又は月当たりの指導時数：週3時間 ○年間の総指導時数：105時間		

通級終了目標（指導期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日予定）

○身近な人（同学年・異学年の友達、教師等）に自分から働きかけ、相手の状況を理解しながら共に活動することができる。

年間の指導目標

○身近な教員や友達に対して信頼感をもち、一緒に活動できる。
○小集団でのゲームや工作などの活動で、友達からの働き掛けを受け止めて、表情、身振りや短い言葉で、友達との意思のやりとりができる。

	通級による指導①	通級による指導②	在籍学級における指導
学期目標	○教員からの質問に対し、聞こえる声で答えることができる。	○友達の説明や働き掛けに対して、身振りや簡単な言葉で反応することができる。	○教師や友達に対して自分から説明をしたり質問に答えたりすることができる。
指導内容・方法	○相手がいる位置（近い・遠い）に応じた、声の大きさを変えた話し方を身に付けること。 ・制作やゲームの手順を事前に示して見通しをもたせる。 ・質問に答えるための「答え方ボード」を準備する。 ・声の大きさを示す「声のものさし」を準備する。	○表情や身振り、簡単な言葉を用いた質問や意思表示の仕方を身に付けること。 ・ペア学習の内容を事前に示して見通しをもたせる。 ・感想を発表するための「感想発表カード」を準備する。 【グループ指導】	○学級の中で友達とやりとりをする方法を身に付けること。 ・通級で使用した「答え方ボード」等を、在籍学級でも使用できるようにする。 ・少人数のグループでの交流場面や、学級での発表会等で説明をしたり質問に答えたりする場面を設定する。
児童生徒の様子・評価	○活動の手順を事前に示すことで、自分から学習を進めることができた。 ○「答え方ボード」を見ながら、小さい声ではあるが教員に聞こえる声で質問したり答えたりすることができた。 ●下を向いて話すことが多く、相手を見ながらやりとりをするまでには至らなかった。2学期は、相手の表情によって答え方を変化させる学習を設定し、相手を見ながら話すことができるようになることを目指していく。	○説明する相手（友達）の働き掛けに応じて、一緒に制作をしたりゲームを交代して行ったりすることができた。 ○親しい友達と一緒に活動をする際には、自分から質問や意思表示をすることができた。 ●異学年（上級生）の友達とやりとりをする際には、相手の説明を正しく聞き取ることができなかった。2学期は、ペア学習の際に異学年の友達との活動を意図的に設定して、多様な相手とやりとりすることに慣れさせる。	○学級でのゲーム大会で、「楽しかった」の感想発表カードを選んで、友達に見せることができた。 ●自分から説明をしたり質問に答えたりするまでには至っていない。2学期は、グループなどの少人数での活動を設定し、その中で自分から言うことができるようになることを目指していく。

※ 本様式は、令和2年4月17日文科科学省通知「平成29年義務標準法の改正に伴い創設されたいわゆる『通級による指導』及び『日本語指導』に係る基礎定数の算定に係る留意事項について」に基づき、基礎定数の算定に際して「特別の教育課程」の届出に必要な記載事項を加えたものです。

※ 情報管理を徹底すること

[様式例 2]

個別の指導計画（1学期）

○通級による指導届出日：令和 年 月 日 ○個別の指導計画作成日：令和 年 月 日

児童生徒名	※語彙が少なく発音の誤りが見られる児童	主たる障がい	言語障がい
学校名 年組	〇〇市立〇〇小学校 4年〇組	通級の形態	自校通級・ 他校通級 ・巡回指導
作成者 (通級担当者)		学級担任	
指導時数	○週又は月当たりの指導時数：週 2 時間 ○年間の総指導時数：70時間		

通級終了目標 （指導期間：令和3年4月1日～令和6年3月31日予定）
<p>○日常生活の中で話す言葉について、正しい発音で話すことができる。</p> <p>○語彙を増やし、身に付けた言葉を日常生活の中で積極的に活用することができる。</p> <p>○日常生活において、キ、ギ音を含む言葉による相手の聞き返しなどがなくなり、自信をもって自分から友達に話しかけることができる。</p>

年間の指導目標
<p>○キ、ギ音の正しい発音を身に付け、相手にわかる話し方ができる。</p> <p>○身に付けた発音に気を付け、音読したり話をしたりできる。</p> <p>○言葉に関心をもち、自分で調べたり新しい言葉を使ったりしながら、語彙を広げる。</p>

	通級による指導①	通級による指導②	在籍学級における指導
学期目標	○キ、ギ音を単語レベル（語頭、語尾、語中）で正しく発音することができる。	○練習した発音に気を付けながら、短い文章を読むことができる。	○音読の際に、自分から進んで読むことができる。
指導内容・方法	<p>○口形や舌の位置などを意識して、キ、ギ音を正しく発音する方法を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と向かい合い、教師の口形をモデルとしながら発音をする。 ・教師と鏡に向かって並び、自分の口形や舌の位置などを自己評価させる。 	<p>○キ、ギ音を含む短い文章を、単語、句、文、音読、会話等の中で正しく発音する方法を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読やゲームなどの活動を取り入れ、楽しみながら発音を繰り返すことができる活動を設定する。 ・短文カードを使って繰り返し読む練習をする。 	<p>○身に付けた発音を意識した音読をして、自信をもつこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の音読では、全員が一文ずつ交代で読むなど、抵抗なく読むことができる工夫をする。 ・安心して発音をすることができる支持的学級風土づくりをする。
児童生徒の様子・評価	<p>○発音の学習に向かう際には、自分から気持ちを落ち着かせ、教師のモデルや鏡を見ながら口や舌を動かすことができた。</p> <p>○正しい口形などに気を付けて、キ音やギ音を発音することができた。2学期は、身に付けた口形や舌の位置などをすぐに想起できるようにカードに示して、学習時間を通して意識させるようにする。</p>	<p>○ゲームを伴う活動の際には、自分から進んで短い文章を読む姿が見られた。</p> <p>●ゲームに夢中になって活動したが、その中で正しい口形などに気を付けてキ音やギ音を発音することには意識が向かなかった。2学期は、相手とやりとりをする必然性のあるゲームを設定し、活動を通して正しい発音を身に付けることができるようにする。</p>	<p>○短い文章を音読する場合は、進んで読むことができた。</p> <p>●正しい発音ができなかったり言い直したりした場合は、自信を無くしてしまいその後自分から読まなくなってしまった。2学期は、まずは少人数のグループの中で発音することができる機会を多く設定し、自身をもたせることができるようにしたい。</p>

※ 本様式は、令和2年4月17日文部科学省通知「平成29年義務標準法の改正に伴い創設されたいわゆる『通級による指導』及び『日本語指導』に係る基礎定数の算定に係る留意事項について」に基づき、基礎定数の算定に際して「特別の教育課程」の届出に必要な記載事項を加えたものです。

※ 情報管理を徹底すること

〔様式例 2〕

個別の指導計画（1学期）

○通級による指導届出日：令和 年 月 日 ○個別の指導計画作成日：令和 年 月 日

児童生徒名	※自分から言葉で相手に伝えることが苦手な児童	主たる障がい	LD
学校名 年組	〇〇市立〇〇小学校 5年〇組	通級の形態	本校通級・他校通級・ <u>巡回指導</u>
作成者 (通級担当者)		学級担任	
指導時数	○週又は月当たりの指導時数：月2時間 ○年間の総指導時数：18時間		

通級終了目標（指導期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日予定）

- 相手を意識して、聞きやすい速さや声の大きさを考えながら会話をすることができる。
- 相手の様子に応じて、自分から進んで声をかけることができる。

年間の指導目標

- 相手を意識して話しかけたり、一緒に楽しくゲームをしたりすることができる。
- 正しい発音ができるとともに、相手に分かりやすい話し方ができる。

	通級による指導①	通級による指導②	在籍学級における指導
学期目標	○ゲームづくりを通して、自分から友達に声をかけることができる。	○発音に気を付けて、相手を見てゆっくり話することができる。	○教師や友達に対して自分から説明をしたり質問に答えたりすることができる。
指導内容・方法	○他者への話し方や声の掛け方を身に付けること。 ・個別指導では、教師とのクイズを行い、教師を相手として聞き方や話し方のスキルを習得できるようにする。 ・ペア学習では、一緒に関わりながら遊ぶ場を設定し、日常生活に生かせるようにする。 【グループ指導】	○相手を見てゆっくり話したり分かりやすく説明したりする方法を身に付けること。 ・1対1クイズの流れを提示し、見通しをもたせる。 ・相手の顔を見て話すことができた際には褒める。 ・ペア学習の手順ボードを机上に設置する。 【グループ指導】	○教師や友達に対して自分から説明をしたり質問に答えたりする意欲をもつこと。 ・学習中に友達との交流場面がある場合には、通級で学んだ話し方を想起させるようにする。 ・グループでの活動の際には、学習の進め方をボードで示し、見通しをもって安心して活動ができるようにする。
児童生徒の様子・評価	○ゲームづくりの活動に集中して取り組み、相手の顔を見ながら出題や回答をすることができた。 ●ゲームづくりの方法が分からなかったり行き詰ったりしたときは、活動を続けることの意欲をなくしていた。2学期は、分からないときや困ったときの訪ね方について指導していきたい。	○ペアでの制作活動では、細かい作り方まで丁寧に教えることができた。また、声をかけながら作り方を説明することができた。 ●提示したクイズの流れや手順ボードを見ながら話すことが多く、相手を見ながら話すことは十分にできなかった。2学期は、少しずつ支援を減らしていき、段階的に自分で話すことができるようにさせたい。	○友達との活動場面では、まずは簡単な内容から声をかけるように促すことで、学んだ話し方を活かして友達に声をかけることができた。 ●想定していなかった相手からの質問には、答えることができなかった。2学期は、少ない人数（ペア、3人程度）の活動を設定し、その中で教師が答え方について支援できるようにしたい。

※ 本様式は、令和2年4月17日文部科学省通知「平成29年義務標準法の改正に伴い創設されたいわゆる『通級による指導』及び『日本語指導』に係る基礎定数の算定に係る留意事項について」に基づき、基礎定数の算定に際して「特別の教育課程」の届出に必要な記載事項を加えたものです。

※ 情報管理を徹底すること

[様式例 2]

個別の指導計画（1学期）

○通級による指導届出日：令和 年 月 日 ○個別の指導計画作成日：令和 年 月 日

生徒名	※注意の集中と自分の気持ちを伝えることが苦手な生徒	主たる障がい	ADHD
学校名 年組	〇〇市立〇〇中学校 2年〇組	通級の形態	自校通級・他校通級・巡回指導
作成者 (通級担当者)		学級担任	
指導時数	○週又は月当たりの指導時数：週1時間 ○年間の総指導時数：35時間		

通級終了目標（指導期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日予定）

- 自分の考えに合わない他者の言動も許容することができる。
- 学校生活のいかなる場面でも、集中して物事に最後まで取り組むことができる。

年間の指導目標

- 気持ちの上手な伝え方を身に付け、自己肯定感を高める。
- 視覚・聴覚情報の入力をスムーズにするためのスキルを身に付け、集中力を高める。

	通級による指導①	通級による指導②	在籍学級における指導
学期目標	○様々な場面での対人関係スキルが分かり、使おうとする意欲を高めることができる。	○短期記憶を養う活動に見通しをもって取り組み、集中することができる。	○通級で学習した伝え方を、在籍学級の生活の中で試行することができる。
指導内容・方法	○気持ちを伝える様々な場面における気持ちの伝え方を身に付け、実際に使ってみようとする意欲をもつこと。 ・気持ちを伝える様々な場面を絵と吹き出しで表したり、モデルを基に自分ができるような伝え方を検討したりする。	○作業を続けて行う際の集中力を身に付けること。 ・作業的な活動を繰り返し行う活動を毎時間設定する。 ・点探し、聞き取り、カード記憶の学習プリントなどの、集中力を養うトレーニングを行う。 ・見通しをもち集中して活動できるようにするために、「集中カトレーニング」の手順表を提示する。	○在籍学級の学習に集中して取り組むための方法や自己決定した内容の伝え方を身に付けること。 ・各教科等の学習において、学習の手順を板書して示す。 ・自己決定したことをノートにまとめる時間を設定して、その間に個別指導をする。
児童生徒の様子・評価	○学校生活において気持ちを伝える場面を具体的に設定することで、状況に応じた気持ちの伝え方を意欲的に考えようとすることができた。また、伝えたいことや相手に応じた伝え方を決め、メモに書くことができた。 ●伝える内容を考えるときに、複数のモデルを提示すれば選択して考えることができたが、自分で考えて答えるまでには至らなかった。2学期は、モデルの提示を少しずつ減らしていき、徐々に自分の力で考えることができるようにしたい。	○すべてのトレーニングを、集中して取り組むことができるようになった。 ●活動の手順や量、方法等を把握しておかないとなかなか自分から活動に向かうことができなかった。2学期は活動の見通しをもつ時間を多く設定し、自分の力で活動の手順を把握して見通しをもつことができるようにしたい。	○通級で学習した内容を想起することができれば、自分から実践し、思っていることを伝えることができた。 ●2学期以降は、通常の学級での授業において通級で学習したことを想起させるために、事前にカード等で学習したことを振り返ることができるようにしておくための準備が必要となる。

※ 本様式は、令和2年4月17日文科科学省通知「平成29年義務標準法の改正に伴い創設されたいわゆる『通級による指導』及び『日本語指導』に係る基礎定数の算定に係る留意事項について」に基づき、基礎定数の算定に際して「特別の教育課程」の届出に必要な記載事項を加えたものです。

※ 情報管理を徹底すること